

様式③

提出日 2019年01月11日

2018年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ

「地域に根ざす総合的学習の創造」

～北国小学校と上原小学校の交流学習を中心に～

氏名：上地 健太・肥後 直宏・山城 俊希

所属学部学科：人文学部 こども文化学科

I. 初めに

私たちは今、人文学部こども文化学科という学科で小学校教員を目指して日々学習している。学校教育のカリキュラムの中には総合的学習という授業があり、小学校の年間指導計画では約70時間という時間を設定しなければならない。総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決することから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。

この総合的な学習の時間は、沖縄県ではどのように実践されておりどのような課題があるのかを私たちは研究したいと考えた。実際に石垣島の上原小学校と沖縄県の最北端の小学校北国小学校の総合的学習の事例を基に考えていきたい。

II. 研究の目的、動機

(1) 目的

本研究では、沖縄県での総合的学習の実践（上原小・北国小）を基に、実際に児童がどのような事を課題として取り上げ、研究し最終的にどんな表現方法を使い発表に至ったのかを基に実例を基にした総合的学習の課題、これから私たちが教育現場に立ったときどのような総合的学習を展開していくべきかを考察し提言することを目的としている。

(2) 動機

昨年上原小学校と北国小学校とこども文化学科の学生とでヤンバルクイナとイリオモテヤマネコに関する総合的学習の成果の発表があり、希少な生物をとりあげて総合的学習をしている両校の学習に興味を持ち学生も参加する総合的学習にはどんな意図があり、総合的学習の課題、私たちが現場に立ったときどのように授業を展開すべきか考えなければいけないと感じたため。

III. 研究方法、地域、期間

(1) 研究方法

北国小学校を訪問し、今まで取り組んできた総合的学習の内容を実際にこども達から聴き、ヤンバルクイナとイリオモテヤマネコの研究施設で生態の調査を行った。石垣市立図書館、沖縄県内への図書館へ行きこども達の総合的学習への学習内容についての学習を深める。

(2) 地域

沖縄県国頭郡国頭村宜名真地区

沖縄県八重山郡竹富町上原地区

沖縄県石垣市浜崎町

(3) 期間

2018年6月1日～2018年9月30日

IV. 結果

下記に記すものが地域に根ざした総合的学習を行った、北国小学校・上原小学校の学習成果である。

・北国小学校

ヤンバルクイナの総合的学習調査結果を、第25回コカ・コーラ環境教育賞にて活動発表(優秀賞受賞)

・上原小学校

イリオモテヤマネコの総合的学習調査内容を、上原小学校学習発表会での演劇発表。

以上の成果から、両校ともに子どもたちが興味を持った地域の事柄について調べる事だけで終わっていないことが分かる。北国小学校では調べたことを多くの方々に知ってもらうためのパワーポイント作成や視聴覚資料作成に繋がっており、上原小学校では調べた内容をイリオモテヤマネコ保護への演劇発表に繋がっていた。

学習成果から分かる通り、北国小学校・上原小学校両校共に総合的学習として単なる調べ学習で終わることなく、子どもたちの学びたいという意欲に沿って次の展開へと繋がっている。調べ学習をする中でも調査結果をもとに両校でお互いに発表し合うなどの連携をもとに多くの知識や考えを子どもたちが習得出来るよう教師の配慮を感じることができた。学習成果全体を見て、教師がルールを敷いて学ばせるのではなく間接的にかかわりながら子どもたちの主体である総合的学習を進めることで学びが多く子どもたちの成長へと繋がることがわかった。私達大学生も両校の中間発表に学生という立場でこの総合的学習に加わり、その事柄について適切な助言や疑問を投げかけることでさらに学習が深まる事を実感した。

V. 考察、分析

今回、上原小学校の前教諭池村先生にお話を伺い総合的学習の内容や、先生の意図・働きかけを知る事が出来た。まず、私たちが今回研究を考えていた上原小学校と北国小学校の沖縄大学での報告会は、両校共に研究の内容の中間発表であることを知りました。

上原小学校・北国小学校共に昨年、地域の絶滅危惧種に指定されている生き物の生態系・保護・交通事故などの事柄を総合的学習で研究していた。この総合的学習を通して、子ども達は地域への生き物への関心を高め、自分たちにできることは何か考えていた。

以上を踏まえて、私たちは、この総合的学習の調査を行い、総合的学習のあり方について、教師が授業を作っていくのではなく、足がかりを作り、子どもたち授業を作れるように支援していくものだと考えた。また、テーマ設定にも、地域との繋がりのあるものをテーマにすることで、より児童が生活の中で繋げやすくする工夫があり大学生の私達は、このような総合的学習では、知識の提供や離れた地域の交流の機会にも繋がると考える。

VI. 今後の展望

今回、上原小前教諭池村先生への聞き取りや北国小学校の金城校長先生のお話し、児童の研究資料などから地域に根ざす総合的学習とはどんなことを実践すべきか、学校での総合的学習を進める教師の動きと児童たちの動きも理解することが出来た。この総合的学習が今後どのような方向へ進んでいくのかを引き続き調べていき、また私たちが学校現場に立つときに次年度のスムーズな引き継ぎができることと、どのような題材を児童に提供しどのような実践を行っていくかを今回の研究を踏まえて実践していきたい。

VII. 終わりに

本研究内容は、沖縄県宜名真地区北国小学校と沖縄県八重山地区上原小学校の地域に根ざす総合的学習を中心に研究を行ったものである。私たちはこの研究をする以前は、総合的学習とは大まかには理解していたものの、地域と関連させた総合的学習への知識はなかった。実際に北国小学校を訪問した際には、児童たちの取り組みとしてヤンバルクイナの研究に関する資料や発表から児童たちの動きを知ることが出来た。また北国小校長先生、上原小前校長先生からの聞き取りから実際に地域と関連付けて総合的学習を実践するということはどのような苦勞やすべきことがあるか等を聞くことができた。

児童が地域に目を向け総合的学習をするということは、地域理解の点や総合的学習から広がる教科指導で重要な意味を持っていた。この取り組みを未来の教育者である学生達や多くの教育者に広く理解してもらい多くの児童が地域を見つめることの出来る機会が増えていってほしいと思う。

最後に今回このような貴重な研究の機会を与えてくださった地域研究所の方々、調査にご協力いただいた北国小学校の方々、上原小学校前教諭池村先生、その他研究にご協力いただいたすべての方々へ感謝申し上げます。

VIII. 参考文献、調査協力

- ・竹富町立上原小学校前教諭 池村先生
- ・国頭村立北国小学校校長 金城先生
- ・国頭村立北国小学校職員、児童の皆様
- ・八重山毎日新聞
- ・琉球新報

IX. 指導教員コメント（指導教員 梶村光郎）

昨年沖縄大学で、北国小学校と上原小学校と沖縄大学こども文化学科学生との総合学習に関わる交流学習が実施された。その成果を踏まえて、三人による共同研究が行われたが、実際に北国小学校に行き、ヤンバルクイナの保護に関わる取り組みの様子や、ヤンバルクイナの実物を見たりすることで同校の総合学習に関するイメージを広げることが出来た。

また、九月には、上原小学校の池村前校長先生にインタビューすることで、上原小学校の昨年度の総合学習の様子も伺うことが出来た。その上で、西表島の様子（イリオモテヤマネコ発見の碑や事故多発地帯など）を見てきた。

このようなアクティブな研究活動を行なって追求した点は、特に評価できるであろう。